



一步前へ

一步前へ
まじまじ
まじまじ
まじまじ

糸魚川市立下早川小学校 標高 92m 児童数 67 名 令和 4 年 5 月 17 日発行 第 2 号

URL <https://www.itoigawa.ed.jp/tukimizu/>または下早川小学校で検索 (カラー版でご覧いただけます。)

運動会が行われます

ゴールデンウィークが終わり、11 日間の過ぎました。あっという間に運動会です。今年度も、新型コロナウイルス感染症の流行状況を考慮し、児童とその家族、一部の来賓のみで実施します。ご容赦下さい。

運動会直前のこの時期は、練習が目白押しです。伝統のみこしりレーや徒競走、学年部りレーの練習にみんな張り切っています。また、応援も応援団を中心に一生懸命練習しています。今年の運動会スローガンは、「全力で 勝利に向かって 走りだせ!」です。全校児童をリードする応援団を紹介します。



← (左) 赤組



(右) 白組→

パトロール員さんと対面式

4 月 20 日(水)に、防犯パトロール員さんとの対面式を行いました。いつも登下校を見守ってくださる皆さんに、全校でご挨拶をしました。どうぞよろしくお願ひします。



1 年生を迎える会

4 月 22 日(金)に 1 年生を迎える会がありました。2 年生は入場時のエスコート、3 年生はプレゼント作り、4 年生は歓迎の言葉、5 年生は縦割り班でのゲーム、6 年生は学校紹介の劇と、それぞれが分担して 1 年生を迎えました。1 年生からも校歌の発表のお返しがありました。連休も終わり、1 年生は小学校生活にもだいぶ慣れてきたようです。

緑の少年団入団式

同じく 4 月 22 日に、緑の少年団の入団式が行われました。1 年生は、団員の証である緑の帽子を 6 年生からかぶせてもらいました。記念の梅の苗木もいただきました。



みなさんは「凡事徹底」という言葉を知っていますか？今日は、その「凡事徹底」を世の中に広めた人のお話をします。

自動車のタイヤや部品を売っている<イエローハット>というお店があります。糸魚川もマックスバリュウのそばにあります。

この会社は、鍵山秀三郎という人が作りました。今から60年くらい前の東京でのことです。その頃は、今のように自動車がたくさん走っていたわけではなく、自動車のタイヤや部品を売っているお店もそんなにたくさんあるわけではありませんでした。そんな時代でしたから、社員の人の言葉遣いや、お客さんに対する態度が良くないことで苦情を言われ、社長の鍵山さんは嫌な思いをたくさんしたそうです。

そこで鍵山さんは、会社やその周りがきれいになれば、社員の雰囲気もよくなるのではないかと考え、トイレ掃除を進んですることにしました。来る日も来る日も。

そんな鍵山さんの姿を見て、トイレ掃除しかしない社長だとばかりにする社員もいました。会社はなかなかうまくいかず、鍵山さんはずいぶん苦勞しましたが、どんな時もトイレ掃除だけはやめずに続けたそうです。

そうこうして頑張り続けているうちに、社長である鍵山さんの姿を見て、社員の中に掃除をする人が現れました。しかも、会社の中だけではなく、近所も掃除するようになりました。

すると、「あの会社は掃除をよくやる会社だ」と評判がよくなりました。評判がよくなると社員もうれしいので、頑張っって働くようになり、会社の雰囲気も売り上げもどんどんよくなりました。そして日本中、いろいろなところにお店がある、大きな会社になりました。鍵山さんは、誰にでもできる「掃除」という平凡なことを、誰にもまねできないくらい**徹底**して続けたことで、素晴らしい結果を生みました。

このように、誰にでもできること、凡事を、誰もまねのできないくらい、続けること、徹底することが、「凡事徹底」です。皆さんも、普段の生活の中で、誰にでもできる平凡なことを、誰もまねできないくらい、徹底して続けましょう。例えば、「相手の人に聞こえる声であいさつをする」とか、「ありがとう、とはっきりと言う」などです。

はっきり言って、毎日、毎回続けることは大変ですね。でも、続くか、続かないかの分かれ道は、その時にやるかやらないかだけです。その時に、「やろう」という強い気持ちがあれば、続けることができます。続けていけば、それが当たり前になり、わざわざやろうと思わなくてもできるようになります。これが、凡事徹底することによって一歩前に進んだみなさんの姿なのです。

これから、1人1人凡事徹底、誰でもできる平凡なことを、誰もまねできないくらい徹底して続けるように頑張りましょう。

玄関前のきれいなお花

4月、5月と、児童玄関前にきれいな花を咲かせたプランターがおかれています。4月はムスカリ(写真左)、5月はシラーカンパニュラータという花です。いずれも、防犯パトロール員の曾根洋さんが育てられたものです。ありがとうございます。

